

令和4年度 中土佐町立大野見中学校 学校評価書

大野見中学校長 楳佐古直広

1. 評価 (A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を達成できなかった)

学校教育目標		心豊かで、主体的に生きる生徒の育成			
研究主題		話し合い、考え、表現できる生徒の育成 ~教科間連携による思考力、判断力、表現力を育てる授業づくり~			
項目	重点項目	取組	取組状況 (○十分達成 ・達成 △十分でない)	関係者 評価	改善策等
知	学力向上のための取り組み	1 校内研修の取組 各チーム会で各種学力調査分析と指導案検討、授業研と事後研修の実施する。 学びの楽しさを実感させる授業づくりについて研究を深める。 2 授業での実践 大野見中学校授業スタンダードに沿った授業展開を行う。 基礎基本(知識・技能)を定着させる工夫と、応用できる力(思考・判断・表現)を育成する。 ※赤ペン、線引きの活用指導 チームティーチングによる生徒の個別支援を行う。 3 進路保障の取組 自己効力感の育成を行い、進路に向かう意欲を高める。 放課後学習や帯タイムの時間で、基礎基本の定着を図り、自主学習力を高める。 4 中土佐検定試験の取組 検定合格に向け、主体的に学ぶ時間を確保し、家庭学習の方法と支援の仕方を探る。	1 校内研修の取組 ・チーム会を定期的に持ち、教科の枠を越えて、授業のことについて話し合うことができた。学びの楽しさを実感させる授業づくりには、チームとしての取組が十分ではない。 2 授業での実践 ○「めあて」の確認や「まとめ」を行うことで、毎時間の学習内容を共有することができた。各種学力調査の結果からは全国平均を大きく超えており、子どもたちには、基礎・基本が十分に定着していると感じる。 △子どもが自分の現状を俯瞰し、より適切な学習を自ら考えることについては、課題が見られる。 3 進路保障の取組 ○3年生は、希望する進路実現ができた。学校での学習(放課後学習室や3年の進路補習など)の時間を通して、進路実現に向けての基礎・基本の定着を図った。 4 中土佐検定への取組 ○個々に応じた適切な支援を行うことで、100%の合格を果たすことができた。	A	どのような家庭学習を行っていくことが良いかについて授業で伝え、授業と家庭学習が密接に結びつくように支援を行ってきたい。 高校説明会や職業を考える機会を設けるなど情報をたくさん子どもたちに提供し、目標を持ち、学校生活を送ることができるようにしてはどうだろうか。
	徳	1 全教員による道徳授業の実施 2 全校道徳の実施(学期に1回) 3 地域・保護者との協働行事 四万十川一斉清掃や清掃ボランティアの活動を行うことで、道徳実践力を身に付ける。	○道徳の時間の取組については計画的に実施することができた。子どもたちはボランティア活動に取り組み、交流を深めることができた。	A	「挑戦する心」「失敗したことを笑わない」「挑戦したことを褒め称える心」をもった子どもたちの育成のために必要な事項について考えていきたい。 「生徒主体の活動」「子どもたちの交流」「大野見に残りたいという気持ち」を目標に取り組みをしていってもらいたい。特に「生徒主体の活動」については挑戦する姿を評価していきたいので、地域の方にはお願いしたい。
	生徒指導の充実	1 生徒会によるいじめ防止活動の実施 2 生徒会中心の仲間づくり 3 生徒指導の三機能の視点 公開授業や校内研修を実施する。 4 生徒を中心とした活動の充実 行事など生徒自身が創造する活動を多くすることを通して、自尊感情を高めていく。 5 自尊感情を高める グッドスターの取組を行う。	○学校生活に満足している子どもの割合が92%とほぼ全員の子どもが、学校生活を楽しんでいる。 ・生徒を中心とした活動に少しずつ取り組んできており、自分たちの意見が取り入れられた行事などを行うことができる喜びを感じ始めているのではないかと考えている。 子どもたち中心の活動を行うためには、場所・時間・物などを十分に確保するために、教師側の準備を早めに行っていく必要性も感じた。		
いじめ・不登校の防止	1 定期的な校内支援委員会 いじめ・不登校等の未然防止と早期発見・早期対応を行う。	○月に1回校内支援会をスクールカウンセラーとともにを行い、気になる生徒についての情報共有と具体的な関わり方などについて話し合いを持つことができた。			
体	体力向上	1 体育授業の在り方の研究 生徒が主体的に参加できる体育授業について研究していく。 2 外部指導者の積極的活用	○「体育が楽しい」と思える生徒の割合が91%であり、子ども一人一人が自分のできることから出発し、自分の力を伸ばしていくことを意識させてきた授業の成果が現れている。	A	子どもたちの自立を考える上で、朝食を自分で作ることができるよう支援策を講じていきたい。 競争力が体力につながっていることもあってはならないだろうか。子どもたちの状況を配慮しながら、競争する場面を設定し、向上したい子どもたちのためにも、取組を行ってってもらいたい。
	基本的な生活習慣の改善	1 食育の充実 給食指導、保健授業を充実し、健康的な生活習慣の形成をより確かなものとする。 2 長期休業中の取組の充実 就寝・起床時刻チェック、献立作成、運動取組カード(スポーツ庁制作)による軽運動の取組を行い、規則正しい生活習慣を促す。	○栄養教諭を中心に、食事を通じた健康的な生活習慣の形成について保護者への啓発活動を行うことができた。 ○長期休業中の生活リズムを一定にするための取組を行ったり、柔軟性を高めるためのジャックナイフ運動を生活の中に取り入れる活動を計画したり、と体の健康についての取組を行った。 ・朝ご飯を食べる子どもは100%となったが、副食を取ることができていない子どもが若干名いる。		
項目	重点項目	取組	取組状況 (○十分達成 ・達成 △十分でない)	関係者 評価	改善策等
横断	保小中の連携	保小中の交流行事を実施し、子ども同士、子どもと教員、教員同士の交流を深め、保小、小中の接続が円滑になるようにする。	○15年間を見通したゴールイメージをしっかりと持ち、成長段階に応じた目標を設定し、実践を深めることができた。	A	教員の時間外勤務の減少のために、生徒の学習支援や部活動の指導者などの人材について情報提供していただくことで、退勤時刻を早くできるようにしていく。 地域との連携について、小さい時から地域を知るために中学生も地域と一緒に活動していったらどうだろうか。
	特別支援教育の視点から見たユニバーサルデザインの実践	1 ユニバーサルデザインの視点 授業改善、校内研修を行う。 2 校内支援会の実施 特別支援コーディネーターを中心として、定期的な校内支援会を実施し、組織的な体制を構築する。	○校内支援会で、子ども一人一人の実態を情報交換し、支援策を検討することで、特に気にかかる子どもを明確にし、寄り添うことができた。		
	学校における働き方改革の推進	1 時間外勤務時間減少の取組 定時退校日、最終退校時刻、学校閉校日を設定する。また、職員個々の勤務実態に応じた勤務時間の見直しを行う。	・時間外勤務は、必要に応じて行っているが、全教職員が退校時間を意識するようになってきた。 △ICTを活用した勤務時間の短縮は十分にできなかった。		
	防災・安全教育の充実	1 避難訓練の実施 様々な状況を想定した避難訓練を年間3回以上実施する。 2 避難所マニュアルの活用 町作成のマニュアルについて研修を行い、活動や協力の方法について検討する。	○子どもたちは避難訓練に真面目に取り組み、避難の手順を確認することができた。		
	部活動	1 複数顧問制での指導 それぞれの顧問が協力し合い、生徒の意欲を高めるとともに、生徒それぞれの技術力の向上をめざす。	○全ての部活動が複数顧問で年間を通して指導を行うことができた。それぞれの立場で子どもたちに支援を行い、意欲を高めることができた。		
	地域との連携	1 広報活動の充実 学校だより等で学校行事を広報し、可能な範囲で保護者、地域の方にも参加していただく。	○学校だよりを大野見地区に全戸配付することで学校の様子を知らせた。また、地域コーディネーターとの協力で、地域の方々の参加数を高めることができた。		

2. 総合評価 (A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を達成できなかった)

評価	評価委員のコメント
A	小中の校長が一人になり、いろいろと工夫がされている。 授業では中学校教員が、小学校に多数の時間を乗り入れている。参観日も一緒にするなど、工夫の具体に落とし取組が進められ、地域にも保護者にもプラスになっている。 小規模校ではあるが、それだからこそできる色々な取組をして、目に見えて改善している。